

## 持続的なマイクロ・ライブラリー運営の要素 ーマイクロ・ライブラリーアワード受賞館を対象とした調査ー

川原 涼太郎

近年日本では地域コミュニティの衰退が社会的な課題となっている。この課題を解決し、地域コミュニティの活性化を促す機関としてマイクロ・ライブラリーが注目されている。マイクロ・ライブラリーは、法的な規制に縛られず開設が容易であること、明確な定義に基づかない多様な形態によって運営されることなどを背景に、2000年代後半以降にその数は増加した。同時に、マイクロ・ライブラリーの運営には様々な課題があり、活動の縮小や閉鎖を余儀なくされる館もあることが報告されている。しかしながら、これまでの研究では、運営に関わる人物による事例報告が中心で、マイクロ・ライブラリーを持続的に運営するための要素については実証的には提示されてこなかった。

本研究の目的は、マイクロ・ライブラリーの設立経緯と持続的な運営を実施するための要素を文献調査と複数のベストプラクティスの事例分析から解明することである。本研究の意義は、これまで解明されてこなかったマイクロ・ライブラリーを持続的に運営するための要素を明らかにすることで、設立後早期に活動縮小を迎えてしまう館や運営に行き詰まる館に向けて、持続的なマイクロ・ライブラリー運営に必要な要素を提示することである。

研究方法は、網羅的文献レビューと事例分析の組み合わせである。網羅的文献レビューでは、「マイクロ・ライブラリー」、「まちライブラリー」、「民間図書館」を検索語として CiNii Articles から得られた文献と、そこから芋づる式に収集した文献を加えた 16 件を対象とした。分析の際は、1) 持続的運営のための仕組みづくり、2) 地域活性化、3) コミュニティづくり、4) 運営者の目的意識や施設の設置意義の 4 つの視点を用いた。

事例分析では持続的なマイクロ・ライブラリー運営の要素を実際に設立や運営に携わる人物の経験などから明らかにするため、ベストプラクティス 3 館の運営者に半構造化インタビューを実施した。半構造化インタビューの質問項目は、網羅的文献レビューの視点を基礎に作成した。質問項目は、「設立経緯と施設の概要について」、「運営について」、「利用者について」、「経営理念・手法について」の大きく 4 つのカテゴリーから成り立っている。

文献調査の結果、マイクロ・ライブラリーの持続的な運営に関する課題は、運営資金の確保と活動目的の維持、コミュニティの拡大、ステークホルダーとの連携であることがわかった。事例分析の結果、持続的に運営されているマイクロ・ライブラリーは、キャッシュフローの改善と安定化と、運営理念の場への反映と適応性、地域住民や地域社会とのコミュニティ醸成を実施していることが解明された。これらは持続的なマイクロ・ライブラリーを運営するための重要な要素であるといえる。本研究に残された課題は、ベストプラクティスのみならず、さらに多くの事例検証のもとで持続的なマイクロ・ライブラリー運営の在り方について体系的に検討していくことである。

(指導教員 小泉公乃)